

地域おこし 協力隊通信



地域おこし
協力隊員
松藤 裕也

こんにちは、地域おこし協力隊の松藤です。この記事を書いてい
る今は3月の下旬なのですが、一
日一日と太陽のエネルギーが強さ
を増してゆくのを感じる時期です
ね。僕は、春の訪れを存分に感
じることのできるこの季節が一
番好きです。厳しい寒さを潜り
抜けて地面から顔を出したフキ
ノトウをおいしく頂くのも、こ
の時期ならではの贅沢ですね。

「近所さん」ができる!?

さて、今僕が住んでいる借家
の前を通る道路を渡り川へ下り
てゆく道の途中に、古民家風の
こざいれにリノベーションを施
された一軒の平屋がひっそりと
佇んでいます。その家の主はナ
カムラさんという東京・世田谷
在住の男性のかたです。僕がこ
の町に引っ越してきたのとはほ
ぼ同じ時期(約2年前)に、空き
家と土地を地元の地権者のかた
から買い取り、そこから一年以

上をかけてすべて自分で直して
素敵な家にリフォームされまし
た。僕もその様子をちよこちよ
こと見学していたので、すごい
なあ、器用な人だなあ、と思っ
ていました。

御年70歳を超えているナカム
ラさん、これまでは世田谷にあ
るマンションを生活の拠点にし
ており、時折こちらに来ては、
趣味のモノ作りやロク、そして
お琴(こ)などを楽しみながら
悠々と過ごしているようでした。

ところが先日、彼の自宅に招
かれ夕飯を共にしたときに、「マ
ツフジさん、私、3月にいよいよ
よ皆野に移住しますよ」と告げ
られました。聞くと、世田谷の
マンションも引き払い住民票も
こちらに移して、皆野に完全移
住をするということらしいので
す。「ですの、今後はときど
き夕飯を一緒に食べて、そして
飲みましよう。歩いて一分の
ご近所さんなんだからさ。」僕
は、この「ご近所さん」という
言葉を、とてもうれしく思いま
した。生まれ故郷も、育った環
境も、年齢も、やってきた仕事
も全く異なる2人の人間が、こ
の町の片隅の、古いけど心地よ
くリフォームされた部屋の中で、
イチローズモルトをロックで飲
みながら話している、これは
奇跡なのではないか、ふとそん
なことさえ思い浮かんでまし

た。
ナカムラさんは、長年大型機
械などの設計や開発研究をされ
てきたかたで、文学部出身の僕
などは、聞いているだけで頭が
クラクラしてくるほど大変な技
術と見識をお持ちのかたです。
その上とてもやさしくて器用で、
大工仕事や畑仕事などもこな
します。うちの2人の息子も、凧
の作り方を習ったり望遠鏡で
月の観察の方法を教えてもらっ
たり一緒に焚き火をしたりと大
変お世話になっていきます。僕と
しては、「僕らのミナノベース」
に子どもたちを集めて、ナカム
ラ先生といっしょにいろいろな
実験やモノ作りの面白さを伝え
る「現代の寺子屋」みたいなも
のができないかなあ、と密かに
考えているのです。

まもなく彼の引越しの日を迎
えます。僕もスケジュールを空
けてお手伝いをする予定です。
「これまでいろいろなかたにお
世話になって生きてきた。これ
からはその恩を、自分のできる
形で若い世代に返していきたい
い」という想いを持っているナ
カムラさんも、この文章が皆さ
んのお手元に届くころには皆野
町民になっていくはず。昨年
年末に皆野に引っ越してくれた
友人の大野君に次いで、またひ
とり移住組の仲間ができたこと
が、じんわりとうれしい春です。



室内には、なんと自作の囲炉裏まで。左右に見えるのはナカムラさんの趣味のギターとお琴



ミナノベース内のカフェ「鹿のねどこ」もいよいよ本格的なリフォーム工事に入りました!

ナカムラさんがDIYで
リフォームした自宅

